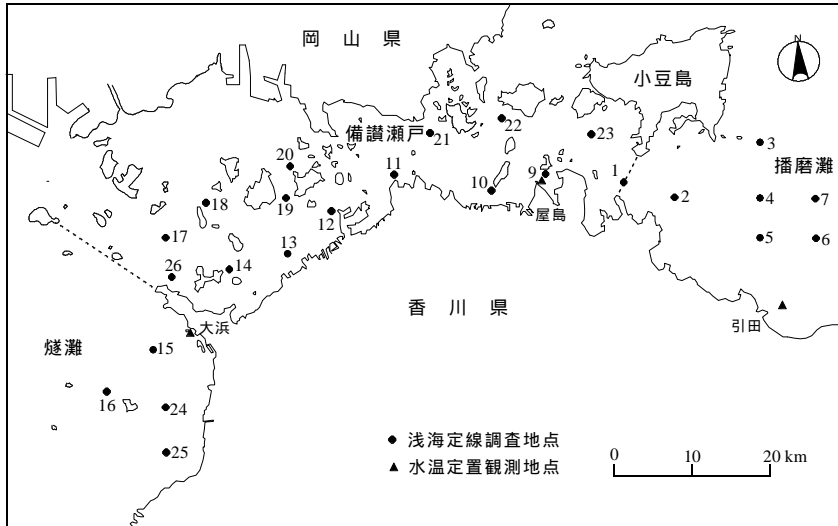


# 香川県漁海況速報 平成17年 6月 (H17- 3号)

香川県水産試験場

## 1. 海況

### 1) 観測地点



### 2) 浅海定線調査

#### (1) 調査日

平成 17 年 6 月 2, 3 日 (播磨灘), 1 日 (備讃瀬戸, 燧灘)

#### (2) 水質概況

平年と比較すると、水温は「やや高めからかなり高め」、塩分は「やや低めから平年並み」、透明度は「平年並みからやや高め」、溶存酸素は「やや低めからやや高め」であった。

		水温 (°C)			塩分 (PSU)			透明度	溶存酸素 (ml/l)	
		表層	10m層	底層	表層	10m層	底層	(m)	表層	底層
播磨灘	7地点平均値	18.9	18.1	16.0	31.7	31.8	31.9	9.3	5.23	4.81
	平年値	18.4	17.1	15.4	32.0	32.1	32.3	9.6	5.37	4.60
	平年偏差	0.5	0.9	0.5	-0.4	-0.3	-0.4	-0.3	-0.14	0.21
	状況	やや高め	かなり高め	やや高め	やや低め	平年並み	やや低め	平年並み	平年並み	やや高め
備讃瀬戸	14地点平均値	19.2	18.6	18.4	32.3	32.3	32.3	6.0	5.21	5.20
	平年値	18.0	17.6	17.4	32.2	32.3	32.3	5.0	5.21	5.08
	平年偏差	1.2	1.0	1.0	0.1	0.0	0.0	1.0	0.00	0.12
	状況	かなり高め	かなり高め	かなり高め	平年並み	平年並み	平年並み	やや高め	平年並み	平年並み
燧灘	4地点平均値	21.6	17.9	16.0	32.4	32.5	32.5	12.7	5.04	4.66
	平年値	20.4	17.0	15.2	32.5	32.7	32.9	10.3	5.42	4.38
	平年偏差	1.2	0.9	0.8	-0.1	-0.2	-0.4	2.4	-0.38	0.28
	状況	やや高め	やや高め	やや高め	平年並み	平年並み	やや低め	やや高め	やや低め	平年並み

平年偏差 = 平均値 - 平年値

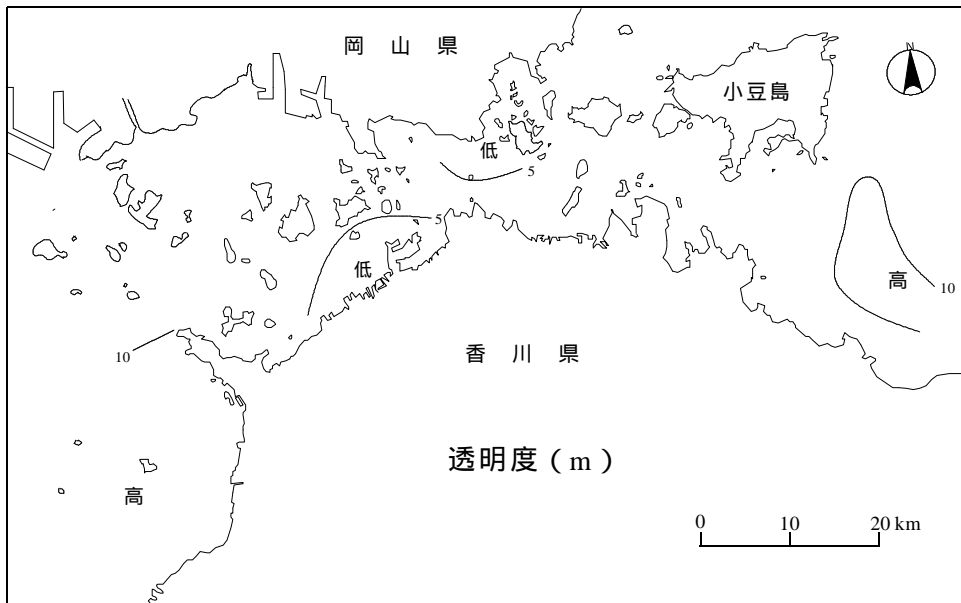
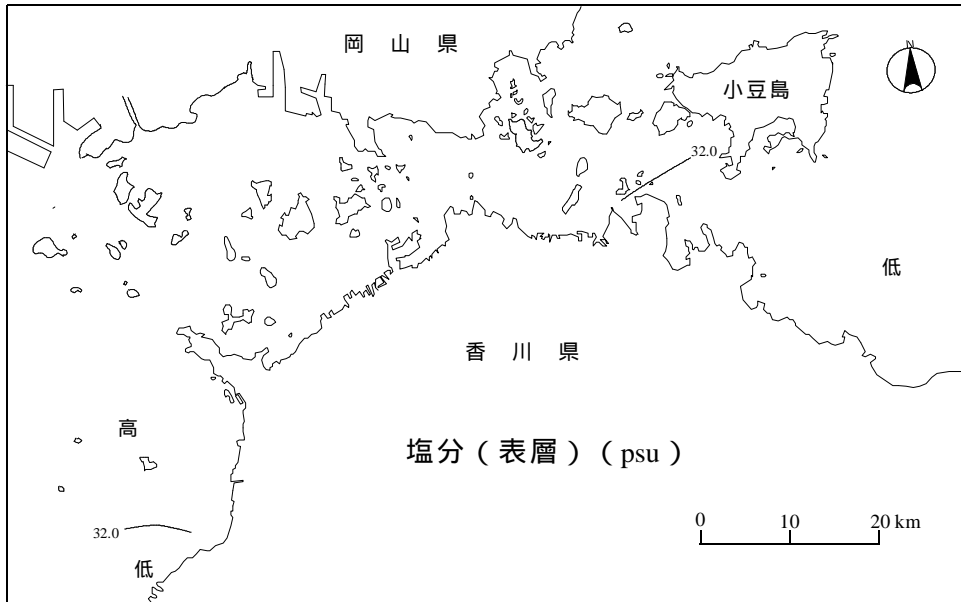
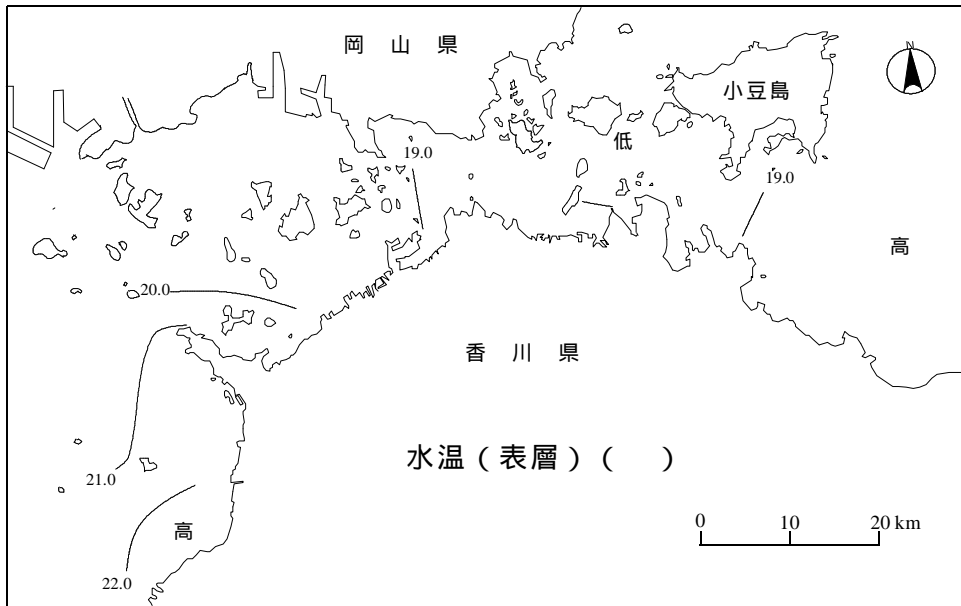
平年値の算出期間

水温, 塩分及び透明度: 昭和 48 年 (1973) 1 月 ~ 平成 13 年 (2002) 12 月

溶存酸素: 昭和 48 年 (1973) 2 月 ~ 平成 13 年 (2002) 12 月

水温は, 毎月 1 日の値に補正。

平年並み	0	平年偏差 < 0.6	( : 標準偏差)
やや高め (やや低め)	0.6	平年偏差 < 1.3	
かなり高め (かなり低め)	1.3	平年偏差 < 2.0	
著しく高め (著しく低め)	2.0	平年偏差	



## 2) 定置観測(水温)

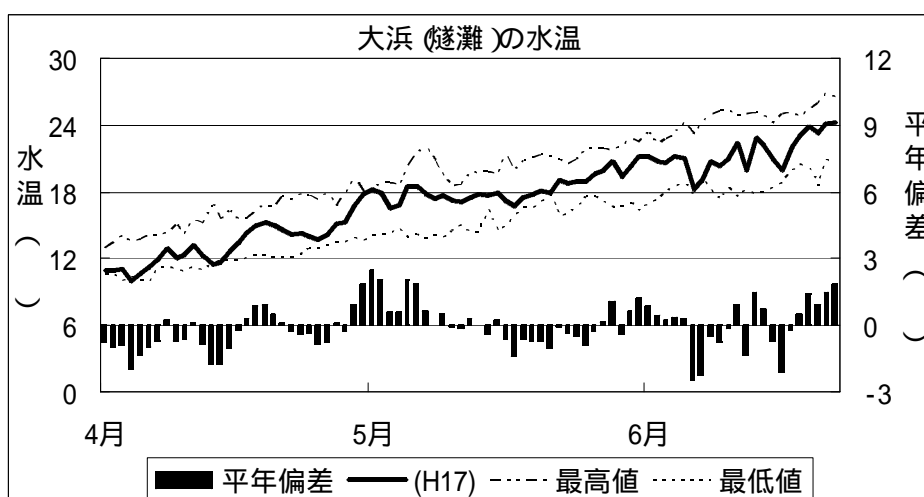
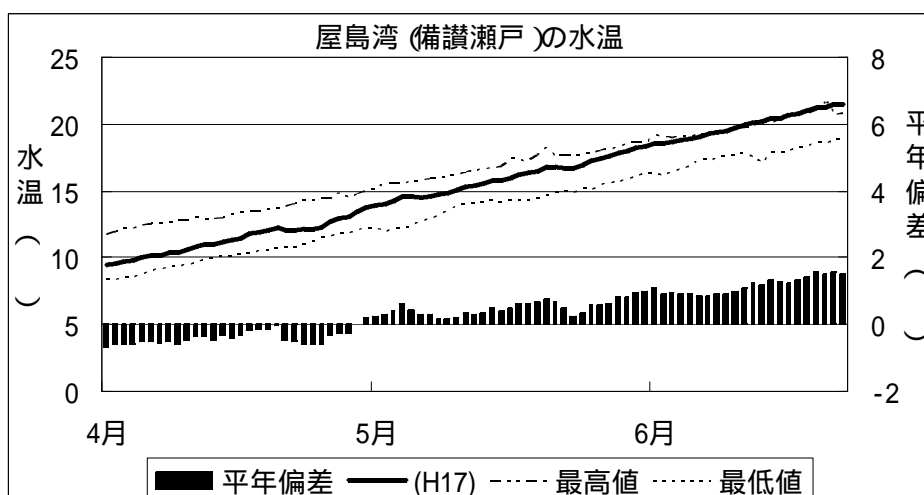
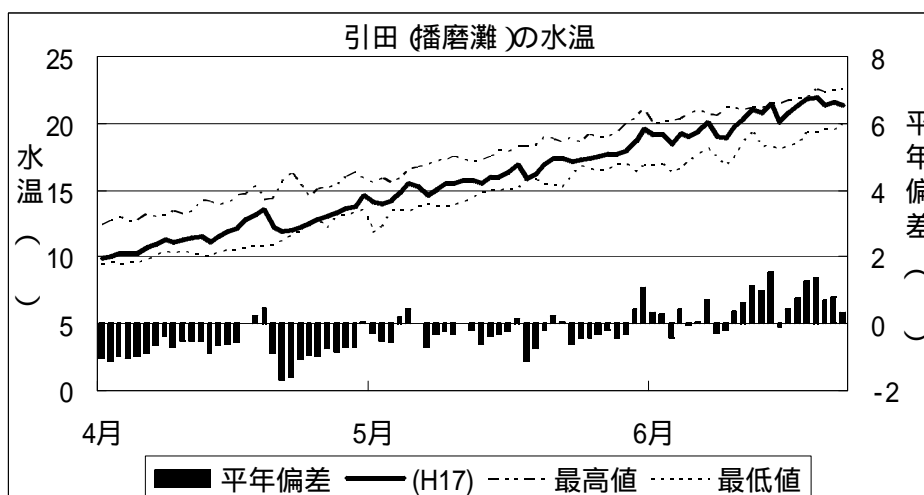
播磨灘(引田): 5月は平年値前後かやや低く推移し, 6月に入り平年値前後かやや高く推移し, 中旬から平年偏差が1前後で推移している。

備讃瀬戸(屋島): 5月は平年値より高く推移し, 徐々に平年偏差は大きくなり, 6月中旬には1.5前後で推移している。

燧灘(大浜): 5月上旬は平年より高く, 中旬は低く, 下旬, 6月初めは高く推移した。6日に大きく低下した後, 平年値前後で大きく変動している。

平年値の算出期間 引田及び大浜: 平成元(1989)~平成14(2002)年

屋島: 昭和50(1975)~平成14(2002)年



### 3) 赤潮

播磨灘：6月中旬，南西部で，*Noctiluca scintillans* の赤潮の発生があった。

備讃瀬戸：6月下旬，東部屋島湾で，*Heterosigma akashiwo* の赤潮の発生があった。

燧灘：発生なし。

### 4) 卵稚仔

調査日：平成17年6月2，3日（播磨灘），1日（備讃瀬戸，燧灘）

出現量 個（尾）/ 曳網

	カタクチイワシ		マイワシ		サワラ		その他の魚類	
	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.00	0.00	0.00	0.00	0.06	0.02	22.19	2.35
備讃瀬戸平均	0.34	1.21	0.00	0.00	0.03	0.00	10.87	2.48
燧灘平均	11.90	2.57	0.00	0.00	0.00	0.04	28.52	3.39
総平均	2.95	1.20	0.00	0.00	0.03	0.02	18.01	2.65

対平年値

	カタクチイワシ		マイワシ	
	卵	稚仔	卵	稚仔
播磨灘平均	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
備讃瀬戸平均	12.0%	83.4%	0.0%	0.0%
燧灘平均	45.7%	50.6%	0.0%	0.0%
総平均	27.9%	55.3%	0.0%	0.0%

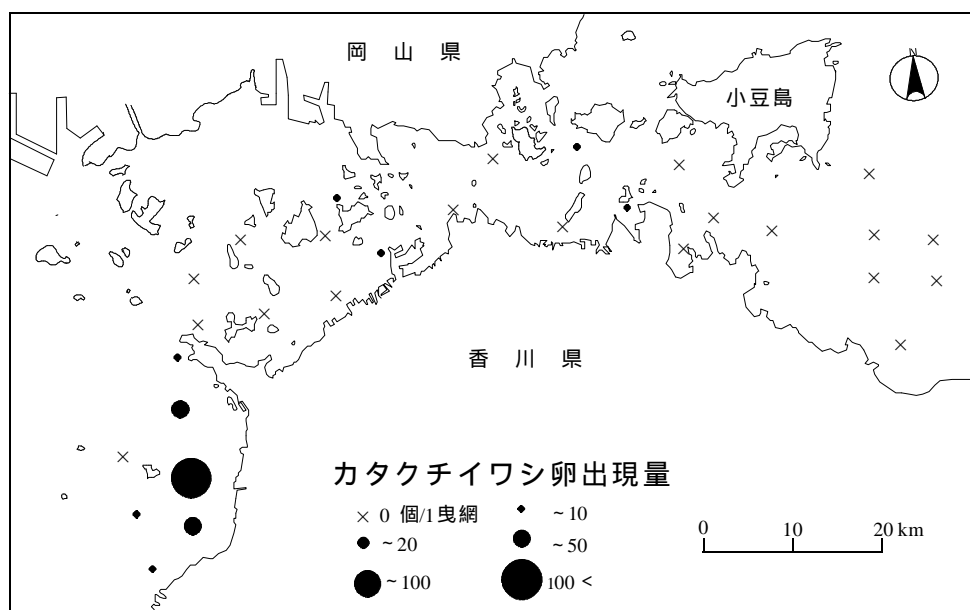
- :平年値が0の場合を示す。

平年値の算出期間

カタクチイワシ：昭和55（1980）～平成16（2004）年度

マイワシ：平成5（1993）～平成16（2004）年度

各調査点のカタクチイワシ卵の出現量は，次のとおりである。



## 2. 漁況

5月からの漁況は次のとおりである。

海 域	漁 況
播 磨 灘	<p>さわら流し刺網は漁期終了も近いが、今年の漁獲量は前年の約1/2程度と推定されるが、さごしの漁獲量は少ない。</p> <p>大型定置網は6月1日から操業が開始され、マルアジ主体に漁獲されているが、全般的に不漁である。</p> <p>東讃のシラスの船びき網は6月1日から操業が開始されたが、前年同様漁獲量は少なく不漁である。</p>
備 讃 瀬 戸	<p>底びき網では主にウシノシタ類、メイタガレイ、マアナゴ、テナガダコ、小エビ類が漁獲されている。</p> <p>高松・庵治沖のイカナゴ込網の平成17年のイカナゴの漁獲は5月下旬で漁が終了し、前年の約2.7倍と豊漁であった。フルセの漁獲量は豊漁であった前年を大きく下回ったが、シンコは大きく上回った。</p>
燧 灘	<p>底びき網では主に小エビ類、アナゴ、メイタガレイ、テンジクダイを漁獲している。</p> <p>さより機船船びき網は1統だけが操業しており、その漁獲量は約50 kg/隻・日で、ほぼ漁期が終了した。</p> <p>イワシ機船船びき網の大羽漁は6月11日から操業が開始され、最初の共販での大羽の漁獲量は好調であった前年とほぼ同じであった。</p>